

「北朝鮮が暴走していますが、このまま放っておいて良いのでしょうか？」

平成 29 年 4 月 18 日

●チーム西田からの質問

北朝鮮が暴走していますが、このまま放っておいて良いのでしょうか？日本がとるべき対応とはどのようなもののでしょうか？

●西田昌司の答え

4月15日は北朝鮮の太陽節（金日成の誕生日）という祝日なのですが、今までの金正恩はこの種の記念日に核実験を強行するパターンが多く、もしも今年核実験をしたらアメリカは先制攻撃すると宣言していました。非常に危機的な状況でしたが、北朝鮮は核実験やミサイル発射を自重したようで、とりあえずは第一の山場を越えました。しかし、翌日の4月16日に北朝鮮はまたもや日本海側の新浦付近で中距離弾道ミサイルを発射しました。直後に爆発して発射は失敗に終わったようですが、これから先も北朝鮮は挑発行為を仕掛けてくるでしょう。

かつて、金正日が列車に乗っている時に大事故に巻き込まれそうになったことがありましたが、一説によると中国が金正日の暗殺を謀ったとも言われています。アメリカは、中国が北朝鮮をもっとコントロールするよう望んでいるのですが、現在の北京政府に北朝鮮をコントロールする力がないことは最近の北朝鮮の暴走を見れば明らかです。北朝鮮は核を保有することで、アメリカや中国にも脅されない独立国—というよりも金王朝と呼ぶべきですが—の立場を得ようと必死ですし、金正恩が何をしでかすかわからない性格の持主であることから、国際社会にとって非常に厄介な問題となっています。

日本はすぐ隣に北朝鮮のようなならず者国家があるにもかかわらず、自分の国は自分で守る覚悟もなしにアメリカの核の傘に守られるといった格好となっています。日本が核を保有することになれば抑止力となって北朝鮮やアメリカとも対等に渡り合えるでしょうが、まずは日本人自身がそういった覚悟を持たなければ話になりませんし、敗戦後に国を守る気概をなくしてしまった日本人が自主独立の精神を取り戻さない限り北朝鮮危機にも対応できません。

命を賭けてでも国を守るという覚悟なしに国は自立できませんし、これは大国・小国にかかわらずにどこの国でも当たり前のことです。しかし、日本は敗戦後に GHQ によって武力放棄を宣言する現行憲法を押し付けられてしまって、自分の国は自分で守るといった当たり前の気概をなくして平和ボケしているのです。もちろん、平和といった価値観自体は否定されるべきものではありませんが、平和をただ唱えるだけではなく、平和を維持するためにはどうすればよいかを考えなければなりません。実際の国際社会は各国が国益を追及してしのぎを削る厳しい世界でありますし、そんな中で「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意した」などと高らかに謳った憲法を掲げる国は世界広しといえども日本ただ一国のみでしょう。

アメリカとソ連が熾烈な覇権争いをしていた冷戦時代は北朝鮮のような国が暴走するようなことはありませんでした。二大大国が対立することでパワーバランスが保たれて表面上は平和な時代であったと言えますが、今ではソ連が崩壊してロシアとなり、冷戦時代は弱小国であった中国が核を保有して今では世界第二位の経済大国にまでのし上がり、尖閣問題をはじめとして日本に対しても牙を剥く状況となっています。ただ平和を唱えれば済むといった時代はとうの昔に過ぎ去っているのだ、と日本人はもうそろそろ気付かなければなりません。

平和安全法制の時の国会の議論を見るとよくわかりますが、国会議員ですら自分の国は自分で守るといった気概を持たない平和ボケな思考回路を持つ

人がたくさんいるのには呆れてしまいます。これからテロ等準備罪の議論が衆議院において始まりますが、国民の生命・財産・名誉を守るのが国会議員の使命でありますし、そういった覚悟の上での議論が本来はなされるべきです。そのためにはきちんとした法整備が必要ですし、国全体のことを考えるがゆえに時として国民の主権に制限をかけるケースも当然のことながらあり得ることを国民も理解しなければなりません。

北朝鮮危機、これからどのようなようになるか予想もなかなか難しい、予断を許さない状況が続くと思いますが、今こそ覚悟をもって自分の国を守るにはどうしたらよいかという議論を始める時であります。

反訳：ウッキーさん

Copyright：週刊西田 <http://www.shukannishida.jp>